令和４年度

小 中 英 研

いしかわ

第 32 号

石川県小中学校英語教育研究会

表紙マーク

は Teaching、
は English の頭文字であり、この２文字で石川県の地形的特徴を形どったものである。

石川県中学校英語教育研究会のこれからの発展を願って、平成元年３月に図案化された我々の emblem である。

目　　次

1　巻頭言

石川県小中学校英語教育研究会　会長

野々市市立布水中学校　校長　松田　英樹　・・・・・・・4

2　石川県小中学校英語教育研究会　会則　・・・・・5,6

3　令和４年度役員名簿　・・・・・・・7

4　令和４年度専門部組織　・・・・・・・8

5　令和４年度事業報告　・・・・・・・9

6　県小中英研　秋の研究大会　・・・・10～15

授業者：かほく市立宇ノ気中学校　教諭　永井　俊和

単元名：New Horizon English Course 2 Unit 4 Homestay in the United States

報告者：幹事長　金沢市立西南部中学校　教諭　木村　祐太

7　県小中英研　８地区研究発表会　・・・・16,17

内容　　：石川県内８地区の研究発表

指導助言：金沢大学　滝沢　雄一　教授

報告者　：研究委員長　白山市立笠間中学校　教諭　吉田　基伸

8　各郡市活動報告　・・・・・・・18～51

会誌「いしかわ」の発行に当たって

石川県小中英語教育研究会
会長　松田　英樹
（野々市市立布水中学校長）

はじめに、石川県小中学校英語教育研究会の活動にご理解とご協力をいただき、皆様方には心より感謝申し上げます。コロナ禍を乗り越え、令和４年度の主要事業でありました秋の研究大会と８地区研究発表会を無事に行うことができたことは大きな喜びです。

秋の研究大会につきましては、10 月 12 日に河北郡市研究会のご協力のもと宇ノ気中学校において開催されました。加賀から能登まで 50 名以上の会員が集まり、地域を超えた協議ができました。確かに、テロップを入れた動画をウェブ配信された研究授業も最近では見かけるようになりました。しかし、子供たち個々のつぶやきや、発問・発言への全体の反応、グループ活動や机間指導の様子といった集合型でなければつかめないこともあります。今回は、子供たちの息づかいや教師の気持ちのこもった対応など、ライブ感を参加した皆で味わいました。ICT の活用法や言語活動の在り方について考える機会を提供していただき、ありがとうございました。

８地区研究発表会につきましては、11 月 30 日にウェブ会議システムを活用して、開催されました。各地区の代表者による研究発表が行われ、多くの会員の皆様方にオンラインで視聴していただきました。金沢大学教授の滝沢雄一先生にご助言を賜り、これからの私たちの研究の方向性について明確にご示唆をいただきました。これからも理想とする授業に近づくよう研究し、実践を振り返って改善を重ねられることを期待しています。知恵を絞り、積み上げられた成果をご披露していただき、ありがとうございました。

令和２年度に石川県中学校英語教育研究会は小中学校英語教育研究会へと組織を発展させ、３年目を迎えます。先に述べました事業には、小学校の先生方にもご参加いただき、おかげさまで校種を超えた研究協議ができました。会員の相互交流を通した研究と実践というこの新たな一歩が、これからの未来を担う子供たちの英語力を育むための着実な歩みへとつながっていけば幸いです。今後も皆様方のより一層のご理解とご協力をお願いし、令和４年度の会誌「いしかわ」の発行に当たってのご挨拶といたします。

石川県小中学校英語教育研究会会則

（名称）
第１条　本会は、石川県小中学校英語教育研究会と称する。

（目的）
第２条　本会は、石川県の英語教育の振興をはかるための事業及び研究交流を行うことを目的とする。

（会員）
第３条　本会の会員は、石川県内の小中学校、或いは他の教育機関に勤務し、英語教育に携わっている者、並びにこの会の目的に賛同して入会を希望する者とする。

（事業）
第４条　本会は、第２条の目的を達成するために次の事業を行う。
１．英語教育に関する研究会
２．研修会・講演会等の開催
３．研究機関誌『英研会誌』の発行
４．研究物・機関誌・研究情報等の交換
５．他の研究団体との連絡並びに提携
６．その他、目的達成のための必要な事業

（役員）
第５条　本会には、次の役員を置く。
会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計、会計監査、顧問

（役員の任務）
第６条　役員の任務は、次のとおりとする。
・会長は、本会を代表し、会務を総理する。
・副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
・幹事長は、会長、副会長を補佐し、本会の会務を処理する。
・副幹事長は、専門委員長を兼ね、専門委員会の会務を処理する。
・会計は、会計事務を司る。
・会計監査は、会計を監査する。
・顧問は、本会が円滑に運営されるよう助言をする。

（役員の選出及び任期）
第７条　役員の選出は次のとおりとし、任期は１年とする。ただし、再任は妨げない。
１．会長、副会長、会計監査及び顧問は、理事会で選出する。
２．会長には、小中学校長をもって充てる。
３．副会長には、小学校長１名、及び能登・金沢・小松の３ブロックの中学校長または教頭を充てる。
４．幹事長、副幹事長及び会計は会長が委嘱する。

（機関）
第８条　　本会には、次の機関を置く。
・理事会　・運営委員会　・専門委員会　・郡市委員会

（理事会）
第９条１　理事会は本会の議決機関であり、各郡市より選出された理事と役員で構成し、年２回会長が招集するほか、必要のある時には臨時に開くことができる。
２　理事会では、次の事項を審議決定する。
１．会則等の改正に関すること
２．役員等の承認に関すること
３．事業や研究の大綱に関すること
４．予算に関すること
５．その他本会の運営に関すること

（運営委員会）
第 10 条　　運営委員会は、会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計で構成し、本会の執行機関としてその目的を遂行するための会務を行う。

（専門委員会）
第 11 条　　本会には、研究委員会、編集委員会、東陸準備室を置き、理事会の決定に従って会務を推進する。

（郡市委員会）
第 12 条　　郡市委員会は、各郡市より選出された郡市委員で構成し、本会の事業の充実や会務の円滑な実施に向けて、各郡市及び域内の学校との連絡・調整を行う。

（経理）
第 13 条　　本会の経費は、会費・補助金・その他の収入をもって充てる。
２　　会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

（事務局）
第 14 条　　本会の事務局は、会長が委嘱する学校に置くことを原則とする。

（規定）
第 15 条　　本会の運営に必要な規定は、別にこれを定めることができる。

付　則　　１．本会則は令和２年４月１日より施行する。

令和４年度 石川県小中学校英語教育研究会 役員名簿

	役　職	氏　名	所　属	郡市・ブロック	職　名
	会　長	松田　英樹	布水中学校	金沢ブロック	校長
1	副会長	室井　登美子	泉小学校	〔小学校〕	校長
2	副会長	森中　静恵	鳴和中学校	金沢ブロック	校長
3	副会長	山口　秀人	橋立中学校	小松ブロック	教頭
4	副会長	坪野　昭	能登香島中学校	能登ブロック	校長
1	理　事			加　賀（小松ブロック）	教諭
2	理　事	若山　直代	荒屋小学校	小　松（小松ブロック）	校長
3	理　事	藤本　智子	福岡小学校	能　美（小松ブロック）	校長
4	理　事	木下　貴博	北星中学校	白　山（金沢ブロック）	校長
5	理　事	松田　英樹	布水中学校	野々市（金沢ブロック）	校長
6	理　事	森中　静恵	鳴和中学校	金　沢（金沢ブロック）	校長
7	理　事	英　　重隆	高松中学校	河　北（金沢ブロック）	教頭
8	理　事	釜谷　剛	邑知小学校	羽咋市（能登ブロック）	校長
9	理　事	労網　清美	樋川小学校	羽咋郡（能登ブロック）	校長
10	理　事	坪野　昭	能登香島中学校	七　尾（能登ブロック）	校長
11	理　事	村田　真紀子	鹿島小学校	鹿　島（能登ブロック）	教頭
12	理　事	鰐渕　夏以	門前東小学校	輪　島（能登ブロック）	校長
13	理　事	吉村　明美	穴水小学校	鳳　珠（能登ブロック）	校長
14	理　事	山岸　多鶴子	若山小学校	珠　洲（能登ブロック）	校長
1	郡市委員	川東　祐平	片山津中学校	加　賀（小松ブロック）	教諭
2	郡市委員	野田　純平	南部中学校	小　松（小松ブロック）	教諭
3	郡市委員	筏井　ゆかり	寺井中学校	能　美（小松ブロック）	教諭
4	郡市委員	熊谷　卓人	北星中学校	白　山（金沢ブロック）	教諭
5	郡市委員	竹田　さくら	野々市中学校	野々市（金沢ブロック）	教諭
6	郡市委員	安江　靖子	泉　中学校	金　沢（金沢ブロック）	教諭
7	郡市委員	北村　菜月	高松中学校	河　北（金沢ブロック）	教諭
8	郡市委員	杉森　優子	邑知中学校	羽咋市（能登ブロック）	教諭
9	郡市委員	北　　美香	宝達中学校	羽咋郡（能登ブロック）	教諭
10	郡市委員	山邉　真悠子	七尾中学校	七　尾（能登ブロック）	教諭
11	郡市委員	釜谷　博子	中能登中学校	鹿　島（能登ブロック）	教諭
12	郡市委員	西門　綾子	輪島中学校	輪　島（能登ブロック）	教諭
13	郡市委員	久田　倫子	能都中学校	鳳　珠（能登ブロック）	教諭
14	郡市委員	嶋垣　麗子	緑丘中学校	珠　洲（能登ブロック）	教諭
	《 事務局 》				
1	幹事長	木村　祐太	西南部中学校	金　沢（金沢ブロック）	教諭
2	副幹事長	吉田　基伸	笠間中学校	白　山（金沢ブロック）	教諭
3	副幹事長	福田　茜	北星中学校	白　山（金沢ブロック）	教諭
4	副幹事長	河隅　慶子	四十万小学校	〔小学校〕	教諭
5	顧　問	野竹　陽一	鳴和中学校	金　沢（金沢ブロック）	主幹教諭
6	会　計	久田　麻衣子	津幡中学校	白　山（金沢ブロック）	教諭
7	会計監査	山口　信治	浅野川中学校	金　沢（金沢ブロック）	教諭
8	会計監査	三田　耕平	緑中学校	金　沢（金沢ブロック）	教諭
	顧　問	滝沢　雄一	金沢大学人間社会研究域学校教育系		教授
	顧　問	久保　拓也	金沢大学人間社会研究域学校教育系		准教授
	顧　問	県市教育委員会	指導主事等		

令和4年度　石川県小中学校英語教育研究会　専門部組織

運営委員会　　・各郡市への連絡・調整　　・郡市会員より会費徴収

（郡市委員兼任）　県中英研幹事長１名　＋　郡市委員１４名　＝　１５名

幹事長		加賀	片山津中学校	川東 祐平	小松	南部中学校	野田 純平
西南部中学校	木村　祐太	能美郡市	寺井中学校	筏井 ゆかり	白山	北星中学校	熊谷 卓人
		野々市	野々市中学校	竹田 さくら	羽咋市	邑知中学校	杉森 優子
		河北郡市	高松中学校	北村 菜月	七尾	七尾中学校	山邉 真悠子
		羽咋郡	宝達中学校	北　美香	輪島	輪島中学校	西門 綾子
		鹿島	中能登中学校	釜谷 博子	珠洲	緑丘中学校	嶋垣 麗子
兼務不可		鳳珠	能都中学校	久田 倫子	金沢	泉　中学校	安江 靖子

編集委員会・会誌「いしかわ」の編集と発行　・諸会合における記録

委員長兼県中英研副幹事長１名　＋　金沢市近隣地区４名　＝　５名

委員長		白山野々市	中学校		金沢	小将町中学校	小松 美歩
福田　茜	北星中学校	河北郡市	内灘中学校	元屋 はる菜	金沢	野田中学校	中町 佳乃子

研究委員会　　夏季研修会と秋の研究大会の運営

委員長兼県中英研副幹事長１名　＋　全８地区各１名　＝　９名

委員長		加賀	錦城中学校	徳田 祐也	河北郡市	河北台中学校	山上 拓斗
吉田　基伸	笠間中学校	小松	国府中学校	田中 志仁	羽・七・鹿	中学校	
		能美郡市	寺井中学校	筏井 ゆかり	鳳・輪・珠	緑丘中学校	渡辺 勇太
		白山野々市	中学校		金沢	高岡中学校	大西 亜矢

東陸準備室　令和７年の東陸石川大会に備える部署　会長の補佐　外部関係業務の執行　大会参加集約

若干名（中英研事務局経験者）

		室長	鳴和中学校	野竹　陽一			

事務局　　・関係機関（教育委員会、大会会場など）との連絡調整　・会計業務全般

幹事長 西南部中学校 木村　祐太	副幹事長(編)	北星中学校	福田　茜	会計	津幡中学校	久田　麻衣子
	副幹事長(研)	笠間中学校	吉田　基伸	副幹事長(小)	四十万小学校	河隅　慶子
	東陸準備室	鳴和中学校	野竹　陽一			

令和４年度事業報告

令和４年６月１日（水）第１回理事・郡市委員研修会　１５：３０～　Zoomにて
参加者：理事（各郡市研究会英語部長）及び郡市委員
1. 令和４年度役員選出
2. 令和３年度組織・事業・予算案 協議
3. 県小中英研会費についての協議
4. 全英連・東陸静岡大会参加希望集約方法と派遣費補助について
5. 令和４年度以降の研究体制について(確認)

令和４年８月３日（水）第４６回東海北陸公立学校英語教育研究会（静岡大会）　オンライン

令和４年１０月１２日（水）　県小中英研 秋の研究大会（中学校）
会　場：宇ノ気中学校（R4：河北郡市地区の中学校担当）
日　程：１０月１２日（水）午後
内　容：研究授業および授業整理会
授業者：永井　俊和　教諭
講評：松田　英樹　校長（県小中英研会長）

令和４年１１月１８日(金)・１９日(土)　全英連佐賀大会　　オンライン

令和４年１１月３０日（水）　県小中英研　８地区研究発表会
日　時：令和４年１１月３０日（水）１５：００～１６：３０ オンライン
助言者：金沢大学　滝沢　雄一　教授
（以下、発表者の敬称略）
１【加賀】徳田　祐也・川東　裕平
意欲をもって学びに向かう英語教育　～自分の考えや思いを積極的に伝え合うことを通して～
２【小松】坂上　智子
小中連携を大切にした英語教育の充実
３【能美郡市】八田　幸樹・谷口　史恵
話すこと（やりとり）の育成　小中連携から見る OST
4 【白山野々市】　竹田さくら・熊谷　卓人
対話的な活動を通したコミュニケーション能力の育成をめざして
5 【河北郡市】　品川　恵美
英語によるコミュニケーション能力の育成
～子どもたちが自分の考えや気持ちを伝える力を高めるために～
6 【羽・七・鹿】山本　桃子・古川　ひろみ
Communication を図ることができる実践的英語力の育成のために
7 【鳳・輪・珠】久田　倫子・奥野　仁美
豊富な英語のやり取りにあふれた教室　～主体的・対話的な学びを深める授業を目指して～
8 【金沢】大西　亜矢・安江　靖子
言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する授業づくり
～金沢型学習スタイルをベースに～

令和５年２月１６日(木)第２回理事・郡市委員研修会　　１５：３０～　Zoomにて
参加者：各郡市研究会英語部長及び郡市委員
1. 令和４年度事業、決算報告
2. 令和５年度組織、研究体制等についての協議
3. 令和５年度事業計画、年度当初報告書類の連絡
4. 各専門部からの連絡

令和５年２月　会誌「いしかわ」第３２号（石川県小中英語教育研究会ホームページに掲載予定）

秋の研究大会報告

記録：金沢市立西南部中学校
木村　祐太

1 研究大会日程

10 月 12 日（水）に、宇ノ気中学校にて永井 俊和教諭による授業が行われた。50 名ほどが参観し、県小中英研としては公開授業としての久しぶりの大会となった。授業後は整理会が設定され、忌憚のない意見交換がなされた。

2　授業の概要

授業では『初めて旅館に泊まる観光客に、ルールやマナーを伝えるためのアドバイスを考えよう。』という課題が設定され、単元の最終末の時間の授業となった。この授業において特に印象に残ったことを以下述べたい。

(1)時間をかけて作成した生きた教材

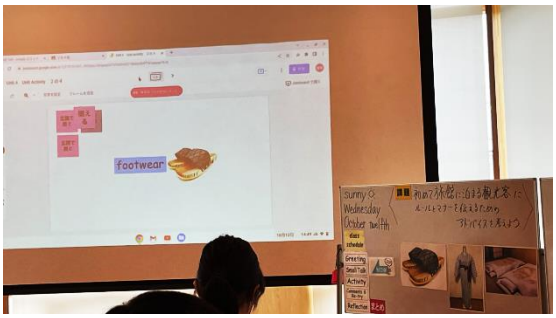
授業者の永井教諭は、ALT を活用し ALT がインタビュー形式に答えるビデオ映像を作成した。普段慣れている ALT が課題に沿って英語を話すことで、生徒は聞き入ってその英語を理解しようとしていた。授業に参加できない時間帯にも対応できる大切な教材であり、指導者が時間をかけて生徒の実態に合った貴重で authentic なものとなっていた。

(2)適切な ICT の活用

テーマに沿って生徒は ICT を活用し Jamboard で意見の交流を行っていた。タブレットを授業に多く取り入れた場合、級友とはコミュニケーションをとらず、自席で黙々と打ち込む授業光景も多くなった。一方、永井教諭の授業では、ICT をきっかけとして生徒がテーマごとに集まり級友同士のコミュニケーションをとりながらも使用ソフトを活用し、思考を深めている点が大変印象的であった。一方でアナログの板書も適切に利用され、大変バランスの良い授業であったように感じた。

(3)4 技能の適切な指導手順

初学者に適切な音声から文字という授業手順が大切にされていた。そのため、授業の冒頭は音声をしっかりと押さえながらも、授業の終末は無理のないライティングが設定されていた。特にライティングでは、無理な課題ではなく授業の延長線上にある課題が設定されており、文量ともに soft-landing な授業展開になっていた。



２年４組　英語科学習指導案

日　時：令和４年１０月１２日（水）第５限
指導者：教諭・永井　俊和（かほく市立宇ノ気中学校）
場　所：ランチルーム

１．単元名　　Unit 4　Homestay in the United States　*(NEW HORIZON English Course 2)*

２．単元の目標
・have to、助動詞 must、動名詞を用いた文の形・意味・用法が理解できる。
・日米の生活習慣や文化の違いを理解し、しなければならないことやしてはいけないことを読み取ったり書いたりすることができる。（知識及び技能）
・日本の生活習慣やマナーについて、伝え合ったり書いたりして表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）
・ホームステイでの問題を捉えたり、問題に対するアドバイスを伝えたりしようとする。（学びに向かう力、人間性等）

３．指導にあたって
（１）教材観
本単元はアメリカでのホームステイが題材である。生徒にとって身近な生活環境についての話題は親しみやすい内容で、日米の生活習慣や文化の違いについて考えるきっかけとなる。言語材料は have to や don't have to、助動詞 must や動名詞が中心である。助動詞は１年生で can、２年生で will、should、may が既習であり、また似たような表現として be going to も学習している。本単元で学習する must not の禁止表現は、１年生で Don't ～.の命令文で学習している。動名詞は１年生で口語表現として既習であるが、主語として使われる文は初出である。また、一般動詞の ing 形は、１年生で進行形としても学習し、これまで多くの単元で使用している。本単元の学習を通して、助動詞を用いた表現の幅が広がり、より的確なアドバイスを伝えることができるようになる。また、動名詞を使用することで、自分の感想や気持ちをより詳細に表現することができるようになる。

（２）生徒観
昨年度から全面実施となった中学校新学習指導要領に基づいた新しい教科書で英語を学習し、２年生に進級した生徒たちである。４月に行われたかほく市の学力調査では、学年平均正答率で全国平均を上回っているが、かほく市の平均正答率を下回っている。４技能の中では、「読むこと」が全国平均を下回り、課題となっている。本クラスは、英語への苦手意識がある生徒が多いものの、ペアでのやり取りでは男女分け隔て無く、積極的に英語を話そうとする生徒が多い。
本単元ではホームステイが題材となっているが、海外経験のある生徒はほぼいないため、生活習慣や文化の違いについては理解が不十分だと思われる。そのため、外国文化に関する映像を見せたり、ALT の経験を話してもらったりして、理解を深めてきた。また、既習の助動詞表現や動詞の ing 形は理解している様子がうかがえるものの、正確性や定着度には生徒による差が見られる。そこで授業の帯活動では、基本文を用いたやり取りや Small Talk を継続している。

（３）指導観
生徒に言語活動の目的、場面、状況を理解させた上で指導を進めていく。特に助動詞表現は、様々な場面設定を想定して言語活動を行うことで、must や should などのニュアンスや伝わり方の違いにも着目させたい。動名詞表現は１年生での既習事項や不定詞の名詞的用法との違いに触れながら、繰り返し使用させることで定着を図る。単元を通して話す活動を多く取り入れることで、生徒が話すことに自信を持って単元末の活動をむかえるようにしたい。特にやり取りでは内容面を重視し、多様なキーワードを共有することでより深く幅広い表現を目指したい。個での言語活動と全体での共有の場をバランス良くマネジメントし、教師が生徒の活動中の様子を適切に見取り、中間評価を積極的に取り入れる。まとめ・振り返りの場面では、生徒が書いた表現を共有し、価値付けすることで、より良い表現を目指そうとする深い学びへとつなげていきたい。

４．CAN-DO リストとの関連（話すこと（発表））

学年末（２学年）の目標	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。
⇕	
単元の目標	日本に来る予定の外国人に知ってもらうために、日本の習慣やマナーについて、伝えることができる。

５．指導計画（総時数　７時間）●印は記録に残す評価

次	学習活動と主な思考の流れ	知	思	主	評価規準（評価の方法）
一	**Preview** 単元ゴールの確認と見通しを持つ。 課題　ホームステイとは何か？ ＜まとめ＞ Students go abroad and stay with a family there.	○			ホームステイについて理解し、単元末で取り組む課題を把握することができる。（観察、振り返りシート）
二	**Scene 1** ホームステイについて、する必要があることやないことを、理解したり伝えたりする。 課題　ホームステイで大切なことは何か？ ＜まとめ＞ You have to speak English. You don't have to speak perfect English.	○			ホームステイの際に、しなければいけないことやする必要がないことを理解したり、伝えることができる。（観察、発表）
	Scene 2 ホームステイでしなければならないことやしてはいけないことを、理解したり伝えたりする。 課題　家の決まりやルールを他の人に伝えるには？ ＜まとめ＞ You must come home by six. You must not go out alone.			○	家でのルールについて、助動詞 must などの理解をもとに、しなければならないことやしてはいけないことを伝え合おうとする。（観察）
三	**Mini Activity** 学校のルールについて、する必要があることやしなければならないことを、助動詞などを用いて、伝え合ったり書いたりする。 課題　運動会を初めて見る ALT が楽しめるように、種目を説明するには？ ＜まとめ＞We call this "*Oodama-hakobi*." We must carry a big ball with four students. We can keep a ball with one hand.		●		学校のルールについて、する必要があることやしなければならないことを、伝え合ったり書いたりして表現することができる。（観察、ワークシート）
四	**Read and Think 1** ホームステイではどのような問題があるかを知り、アドバイスを書く。 課題　ホームステイでの悩みに対して、どんなアドバイスができるだろう？ ＜まとめ＞You should follow the family's rule.			●	ホームステイではどのような問題があるかを知るために、事実や書き手の気持ちを整理して概要を捉えたり、アドバイスを伝えたりしようとしている。（観察、ノート）
	Read and Think 2 日米の生活や文化の違いを知り、ともに暮らすヒントを考えるため、解決策を考えて書く。 課題　ウィルソン夫婦にどんな提案ができるだろう？ ＜まとめ＞Why don't we go out together?	●			日米の生活習慣や文化の違いを知り、事実や書き手の気持ちを整理して体験談の概要を捉えたり、解決策を考えて書いたりする技能を身につけている。（観察、ノート）

五	**Unit Activity** 日本の習慣やマナーについて、伝え合ったり書いたりする。 課題　初めて旅館に泊まる観光客に、ルールやマナーを伝えるためのアドバイスを考えよう。 ＜まとめ＞ In a Japanese-style hotel, you must change your shoes to slippers. You can wear yukata. You don't have to put "futon". Staffs will do it.　**＜本時＞**		●		日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝え合ったり書いたりして表現することができる。 （観察、ワークシート）

６．本時の学習（ 第五次　１／１ 時間 ）

（１）小単元名　　Unit Activity

（２）学習のねらい

・日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝え合ったり書いたりして表現することができる。（思考・判断・表現）

（３）学習過程

時間	学習活動と主な思考の流れ（・） ＜思考の流れの記述＞ (P)個人、(G)ﾍﾟｱ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ、(S)全体に考えを広げる	指導(・)と評価及びその方法（　　） B 規準に達しない生徒への支援方法（※） **生徒指導の３機能［　］**
導入 10 分	１．Greeting and Small Talk ・英語であいさつをする。 ・帯学習）ペアでテーマに沿った small talk をする。 「Which do you want to stay for a trip, a Western-style hotel or a Japanese-style hotel? And why?」 ２．Introduction of Today's class ・ALT と友人が日本の旅館に泊まった時に困ったことを尋ねたインタビュー映像を見る。 「 footwear / *yukata* / *futon* 」 ・教師と英語でやり取りをしながら、本時の課題を把握する。	・small talk のテーマを提示する。 ・自分の立場を明確にし、理由を伝えるためのキーワードを簡単に確認、共有する。 ・日本の旅館と海外のホテルではルールやマナーが違うことをおさえる。【目的】 ・映像で見た３つの困ったことに対して、どんなルールやマナーがあるか考えさせる。【状況】 ・修学旅行や家族旅行を想定し、映像と同様に困った観光客がいた場合、どう英語でアドバイスするか考えさせる。【場面】
	<u>初めて旅館に泊まる観光客</u>に、<u>ルールやマナーを伝えるため</u>の<u>アドバイス</u>を考えよう。	
展開 30 分	３．Pair Activity ・３つのトピックのうち１つを選び、それに対するルールやマナーを個人で考える。(P) ・キーワードを英語で Jamboard に上げる。 ・Jamboard のキーワードを見ながら、同じトピックを選んだペアでルールやマナーを表現し合う。(G) ・うまく表現できた生徒は、全体で発表する。(S) ・うまく表現できなかった生徒は、どんな表現に困ったかを全体で共有する。(S)	・自分が選んだトピックに対して、どんなルールやマナーがあるか考えさせ、思考ツールでアイデアを膨らませる。思いつかない場合はトピックを変更させる。［**自己決定**］ ・既習表現を使って表現させる。 ・机間指導で生徒を見取り、良い表現や使えそうな表現を全体で共有する。［**共感的関係**］ ・どんな表現が知りたいかを明確にさせる。

	4．Comments and Re-try ・実際の旅館の HP や案内を見て、自分の紹介に取り入れられそうな表現をJamboardに加える。 ・再度、ペアでルールやマナーを伝え合う。(G)	・英文を読ませ、参考にできそうな表現を確認する。［自己決定］ ・ペアを変えながら繰り返しやり取りをさせる。
終末 10 分	5．Reflection ・自分が選んだトピックについてのアドバイスをワークシートに書いてまとめる。(P) ・書いた英文を同じトピックを選んだクラスメイトでチェックし合う。	・うまく書けている生徒のワークシートをスクリーンで表示し、価値付ける。［自己存在感］ 日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝え合ったり書いたりして表現することができる。（観察、ワークシート）【思考・判断・表現】 ※机間指導で、板書やスクリーンの表現を参考にさせる。
	（例）In a Japanese-style hotel, you must change your shoes to slippers. You can wear *yukata*. You don't have to put "futon". (Staffs will do it.)	

（4）板書計画

sunny Wednesday October twelfth

＜ 課題 初めて旅館に泊まる観光客 に、ルールやマナー を伝えるための アドバイスを考えよう。＞

class schedule
Greeting
Small Talk
Activity
Comments & Re-try
Reflection

footwear

・廊下：hall

yukata

・地肌：skin
・帯：band

futon

・仲居：staff
・畳：tatami（floor）

まとめ （※スクリーン上に表示）

In a Japanese-style hotel, you must change your shoes to slippers.
You can wear *yukata*. You don't have to put "futon". (Staffs will do it.)

7．授業参観の視点
①「豊富な英語のやり取りにあふれた教室（今年度県小中英研研究テーマ）」になっていたか。
②目的、場面、状況の設定は適切であったか。
③思考ツール（本時は熊手チャート）は、生徒の思考を深める手段として適切であったか。
④生徒同士のやり取りや教師の見取り、中間評価によって、表現や内容に深まりが見られたか。
※②～④「自分の考えや気持ちを伝える力」を高める指導法の工夫（今年度河北郡市研究テーマ）になっていたか。

中　2	Unit 4（p.66）	Class	No.	Name
英　語	Homestay in the United States			

- ☐ footwear
- ☐ yukata
- ☐ futon

★ useful keywords from your friends or Websites

県小中英研８地区研究発表会　令和７年度の東陸石川大会に向けて

報告者：研究委員長

吉田　基伸（白山市立笠間中学校）

1.　はじめに

令和７年度に開催予定の東海北陸公立学校英語教育研究会（石川大会）に向けて、県内の各地区の取り組みや研究内容の発表会が１１月３０日（水）にオンラインで開催された。指導助言には、金沢大学の滝沢雄一教授をお招きした。令和２年度より石川県小中学校英語教育研究会となり、より一層の小中連携が求められる中、各地区の成果や課題を発見することができる機会となった。以下、特に印象に残ったことを中心として、報告させていただきたい。

２．ICT 機器の活用について

昨今の教育現場の ICT 機器の充実は教育現場に大きな変化をもたらしている。生徒１人に１台タブレット端末が普及されたことにより、英語教育もまた新たなステージに立たされているのではないだろうか。しかし、授業における ICT 活用には目覚ましい発展の裏に、大きな課題もあると考えている。以下は課題として考えられる点である。

①生徒の思考や学習の流れ、授業内容を残しておくことが難しい

黒板にピクチャーカードを貼るのとは違い、スライド等では前の情報が残らない。思考の流れや学習内容が次々と更新されていくことは生徒にとっても大きな負担であるに違いない。また、本時の最後に何を学んだかを視覚的に残してあげることも必要である。

②使用目的の明確化をし、効果的な使用が必要である

場面設定や導入、コミュニケーションのツールとして ICT を活用しているが、その便利さは危険であると考える。生徒の思考の流れを意識した上で、適切な場面での使用を常に考えることが必要である。

大きな課題として２点を挙げたが、従来の指導方法と ICT を上手に活用し、それぞれの短所を長所で補いながら、授業展開を考えていくことが英語教員に求められていることであろう。今後も試行錯誤を繰り返しながら、よりよい ICT 機器の活用に取り組んでいきたい。

3.　現状・課題・成果

今年度の石川県小中学校英語教育研究会の研究テーマは（「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」）である。このテーマに合う小テーマを各地区で設定し、研究を進めてもらっている。今回の発表会を通して、各地区の進捗状況や研究の充実度、研究の進め方に関する課題や改善点が浮き彫りになったのではないだろうか。滝沢教授の助言にもあったように、令和７年度東海北陸公立学校英語教育研究会（石川大会）に向けて、石川県全体での英語の教育に関する共通認識を深め、各地区では研究内容の精査を進め、PDCA サイクルで研究に取り組む必要がある。また、小中連携にも力を入れ、今後の英語教育の発展を目指していかなければならない。

4.　さいごに

オンラインではあるが、各地区の研究や授業実践の発表から英語教育の可能性はより一層広がっていると感じることができた。新学習指導要領が施行され、求められる資質能力はハイレベルではあるが、常に教育のあり方を見つめ直しながら、指導をしていきたいと考える。また、令和７年度東海北陸公立学校英語教育研究会（石川大会）に向けて、各地区が互いに刺激し合い、石川県全体の発展を目指したい。

令和４年度　郡市活動報告

加賀市

報告者：加賀市立片山津中学校
川東　裕平

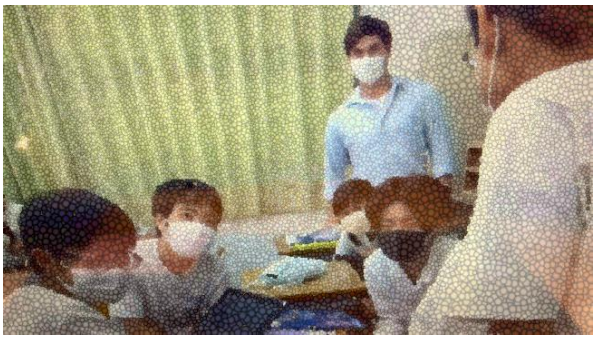
■　令和４年度郡市研究テーマ

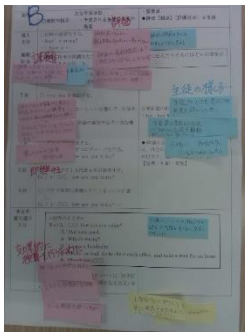
意欲をもって学びに向かう英語教育

～自分の考えや思いを積極的に伝え合うことを通して～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
５月１３日（金）	第１回研修会（組織会）
７月２６日（火）	第２回研修会（中間報告・情報交換・評価・ICT・ALT）
１１月３日（木）	第７４回　南加賀地区中学校英語暗唱大会
１１月８日（火）	第３回 授業研究会（東和中　授業者：山口　麗菜）





■　成果と課題

加賀市では毎年、石川県立大聖寺高等学校同窓会が主催となって英語暗唱大会を行っている。今年も加賀市の多くの生徒が参加し、大聖寺高校で発表を行った。放課後に ALT と共に練習し、英語に触れる機会を多く持つことができる良い機会となっている。

第 2 回研修会では、各実践を持ち寄りよりジャムボードを使って、共有、発表することができた。テーマを再度確認し、様々な指導法を共有する良い機会となった。また、第 3 回研修会では、東和中学校山口先生による研究授業を行った。言語活動では生徒にモデルを提示することで生徒は怖がることなく意欲的に取り組むことができていたが、自分で考えた内容を話す機会が少なく、即興性や活動の動機づけに課題が残った。指導案検討や模擬授業など研修会で行い、加賀市の英語教員全員で加賀市のテーマに沿った授業を構築するなどの改善が必要と感じた。

第１学年３組　英語科学習指導案

日　時：令和４年 11 月８日（火）第５限
指導者：講師・山口麗菜（東和中学校）
場　所：１年３組 教室

１　単元（題材）名　Let’s Talk2 体調―説明する・指示する―　New Horizon English course 1

２　単元（題材）の目標

・体調不良という場面に対応するために、自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、適切に応答することができる。（「やり取り」イ）

３　単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・体調をたずねたり、体の不調を説明したりする表現の意味や働き方を理解している。 ・体調を尋ねる表現や、体調不良を訴える表現を用いて、相手や自分の体調について伝え合ったり指示したりする技能を身につけている。	・体調不良という場面に対応するために、自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、適切に応答したりしている。	・体調不良という場面に対応するために、自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、適切に応答して指示をしたりしようとしている。

４　指導と評価の計画（２時間）

次	時間	ねらい（■），言語活動等（丸数字）	知	思	態	備考
1	1	■　体調をたずねたり、体の不調を説明したりする表現の意味や働き方を理解している。 ①　体調を表す表現について触れる ②　新出単語・新出表現を確認する。 ③　本文を全体で確認する。			○	
	2	■　体調不良という場面に対応するために、自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、適切に応答して指示をしたりしている。 ①　前時の復習をする。 ②　ペアで考える。 ③　発表する。		○		・ペアのやり取りを書く。

５　本時の学習（第１次２時）

（１）小単元名 Let’s Talk2 体調―説明する・指示する―

（２）本時のねらい

・体調不良という場面に対応するために、自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、適切に応答している。【思考・判断・表現】

（３）準備・資料等　教科書・ノート・PC

（４）本時の展開

配時	主な学習活動 ○発問や指示・予想される生徒の思考や発言	・留意点 ◆評価【観点】（評価方法）☆支援
導入	○前時の復習をする。	

5分	・What’s wrong? ・I have a …	
展開 30分	課題＜自分の体調を相手に伝えたり、たずねるにはどんな表現があるかな。＞	
5分	○ 評価について提示する。 ・それぞれの話し方・表現力を確認する。	
5分	○ tool box を確認する。	
考える 10分	○ ペアでシチュエーションを選んで、対話を考える。 ○作った人から、対話の練習や見ずに読む練習をする。	☆教科書の例を再確認させる。 ・tool box を活用させる。
7分	○ グループで発表する。 ・6人ずつ・8人ずつのグループを作る。 Ex ）A: ○○, how are you today? …	◆体調不良という場面に対応するために、自分の体調を伝えたり、相手に声をかけたり、適切に応答している。 【思考・判断・表現】
5分	○ グループで1人代表4名が発表する。 Ex ）A: ○○, how are you today? …	
8分	○ ペアで実際に活動したことをノートに書く。 Ex ）A: ○○, how are you today? …	
まとめ 振り返り 5分	<本時のまとめ> Ｅｘ）A：○○, how are you today? B：Not very good. A：What’s wrong? B：I have a headache. A：That’s too bad. Go to the nurse’s office, and take a rest for an hour. B：Thank you,○○. ☆本時を振り返り、振り返りシートに「相手に体調をたずねる文・自分の体調を伝える文」を入力する。	

6　板書計画

課題　自分の体調を相手に伝えたり、たずねるにはどんな表現があるかな。

評価

… ➔ B

… ➔ A

… ➔ S

本時のまとめ

相手の体調をたずねる文➔ What’s wrong?

自分の体調を伝える文➔ I have a headache.（ fever / stomachache ）

令和４年度　郡市活動報告

小松市

報告者：小松立南部中学校
野田　純平

■　令和４年度郡市研究テーマ
小中連携を大切にした英語教育の充実

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
５月１０日（火）	・組織づくりと今年度の研修計画について ・校種ごとに分かれての情報交換
６月　８日（水）	・小松教育事務所　吉本指導主事による講話「やり取りあふれる授業づくり～小中連携の視点から～」 ・校種ごとに分かれての情報交換
７月２５日（月）	・模擬授業（矢田野小学校　　坂上　智子教諭） ・１０月の研究授業の指導案検討
１０月２６日（水）	・研究授業（松陽中学校　　西　恭平教諭） ・研究協議
１月１１日（水）	・校種ごと、校区ごとに分かれての実践交流と情報交換 ・今年度のまとめ、来年度の計画

■　成果と課題

・研究授業は小中連携の視点から、小学校６年生または中学校１年生の方が良い。お互いにどのような学習を行っていることを知ることが、自身の授業改善につながる。

・中学校教員は、生徒が小学校でどこまで学習してきているのかを知るためにも、小中連携は欠かせない。

・英語で「話す（やり取り）」力はとても大切だが、入試のことを考えると「読む」力も育成していかなければならない。バランスが大事。

・第２回と第４回で模擬授業と研究授業を行った方が良いのではないか。来年度からはどの学校が担当か早めにわかるので、第２回の時期でも対応できる。

・校区別にそれぞれの学校に分かれて研修しても良いのではないか。移動の時間短縮にもなるし、生徒の対応もできる。

第１学年２組　英語科学習指導案

令和４年１０月２６日（水）第６限
指導者：西　恭平
場　所：１年２組　教室

１　単元名　Lesson5　School Life in the U.S.A.

２　単元(題材)の目標
・現在進行形の肯定文・疑問文を用いた文の意味、用法を理解し、正しく運用する。【知識及び技能】
・日本の学校生活や行事について、簡単な語句や現在進行形の表現を用いてALTに紹介し、簡単なやり取りをする。【思考力、判断力、表現力等】
・ALTの先生に日本の学校生活や行事について積極的に英語で紹介しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

３　単元について

○単元観
本単元では，アメリカの学校生活が題材として取り上げられている。マークがアメリカの学校の授業の様子を紹介したり、花とランチタイムについて話し合ったりしている。さらにアメリカに住んでいるリサから放課後の活動について書かれたメールも扱われている。アメリカの学校と日本の学校では、授業の選択方法ややランチタイム、放課後の活動など多岐にわたって違いがあり、そのことから、文化の違いや考え方の違いに触れることができる。言語材料としては、現在進行形が扱われており、目の前で進行している動作や反復的な動作について表現する方法を学ぶことができる。本単元では新学習指導要領の１目標（３）話すこと［やり取り］イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする」指導と位置づける。「松陽中学校 CAN-DO リスト」の第１学年においては、「話すこと（やり取り）：身近な話題（自分・家族・好きなことなど）について、ごく簡単な英語で質問したり、答えたりできる。具体的な情報をえるために、ごく簡単な英語で質問したり、答えたりできる。」としている。 したがって、本単元を通して、目的・場面・状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを述べ合う力を養う。

○生徒観
本学級の生徒は、小学校外国語活動から楽しく意欲的に学習に取り組んでおり、簡単なあいさつや誕生日を聞き合ったり、何の食べ物や教科が好きかを聞き、答えたりする等、外国語活動で体験を通して身につけた技法を使いながら言語活動に積極的に取り組んでいる。これまで１学期には、主として「自分の好きなことや好きなも の」、「日常生活で行っていること」等を中心的な話題として、事実や気持ちを伝え合った。２学期からは、話題について自分の経験や価値観に基づいて思考し、考えや感じたこと等を伝え合うやり取りを行っている。学級内の人間関係は男女の隔てがなく良好であり、学習の基礎の定着に差はあるものの、発音や意味を教え合ったり、スペリングを確認し合ったりすることに抵抗はなく、ペア学習やグループ学習がスムーズに行える。さらに、自分の考えを伝えたい、表現したいという生徒が多く、英語を話したり、書いたりという表現活動に意欲的に取り組む姿勢も見られる。生徒がこれまで学習したことや、経験したことを結び付けて考え、目的・場面・状況に応じた適切な表現に気付き、自信をもって表現できる姿を期待している。

○指導観
本単元の指導にあたっては、単元末のゴールを「日本の学校生活や行事について、ALT の先生に英語で紹介しようとしている」とした。パート１やパート２における普段の学校生活の様子や行事の様子を英語で紹介したものをまとめて、ALT の先生に見せ、その内容についての質問に答えたり、クイズ形式で尋ねたりする活動を設定する。現在進行形の肯定文などを用いて、目の前で何をしているのかを即興で話す技能を身に付けていくために、本時の学習ではタブレット端末を利用して、ペアで相互に説明したり、確認し合う場面を設定する。この際に場面の説明や、感想を付け加えることで、目的・場面・状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを述べ合う力を養っていきたい。単元末ゴールであるALTへの紹介動画を作成していく中で、互いに自分の意見や考えを述べ合い、相

手の考えに同意したり、反論したりする表現等を指導し、さらに自分の考えを深めて述べ合わさせ、様々な考えや価値観を全体で共有させる。 また、モデルとなる生徒のやり取りから，他の生徒の使える表現の幅が広がったり、述べ合う視点を広げさせたりしたい。また、思考を深めるために考える視点をはっきり示したり、明確な発問を提示したりすることを心がけたい。

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・現在進行形の文の特徴や使い方を理解している。 ・現在進行形の用法を用いて簡単な英語を話す技能を身に付けている。	・アメリカに住む友人リサからのメールを読んで概要を捉える。 ・日本の学校生活や行事について、簡単な語句や現在進行形の表現を用いて ALT に紹介し、簡単なやり取りをする。	・日本の学校生活や行事について、ALT の先生に英語で紹介しようとしている。

5　指導と評価の計画（総時数１２時間）２/１２

時間	学習活動	知	思	態	備考
1	GET Part1 ■単元の目標を理解するとともに、外国の学校の様子の写真について状況を説明する。 ①本文の内容理解を通して、現在進行形の文の使い方を確認する。				
2	GET Part1 ■学校生活の様子を動画撮影したものを使い、その内容を説明する。 ①動画の人物が何をしているかについて、現在進行形の肯定文を用いて説明する。				
3	GET Part2 ■。①本文内容の理解を通して、現在進行形の疑問文の使い方を理解する。 ②ピクチャーカードの人物について質問したり答えたりする。				
4	GET Part2 ■ピクチャーカードについて、その様子をペアで伝えあう。 ①本文内容の理解を通して、現在進行形の疑問文の使い方を理解する。 ②ピクチャーカードの人物について質問したり答えたりする。				
5	USE Read ■アメリカの学校の友達からのメールを読む。 ①アメリカの中学校生活について書かれた本文を読み概要をとらえる。				
6	USE Read ■アメリカの学校の友達からのメールに返事を書く。 ①放課後自分が何をしているかについて、メールで返事を書く。				
7	USE Write ■アメリカにいる ALT の友だちに、日本の中学校生活について紹介するプレゼン資料を作る。 ①School Life や School Events に関する動画を写真、資料をまとめ、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、既習の語句や現				

	在進行形の文などを用いて説明する発表ノートを作る。				
8	USE Write ■友達が作成した発表ノートを見て、自分のノートの説明するページをリライトする。 ①友達が作成した発表ノートを見て、場面状況の説明や感想の表現を参考にし、自分の動画のサブタイトルをリライトする。	○			
後日	ALT とのインタビューテスト ALT の先生と英語で会話し、日本の学校生活や行事について紹介する。		○	○	

6　本時の学習（2/１２）

（１）小単元名　　GET Part 1

（２）本時のねらい

・動画の人物が何をしているかについて、ペアで伝えあう。【思考・判断・表現】

（３）指導過程

時間	学習活動 予想される生徒の思考や発言	学習活動	評価規準・評価方法 ★支援
１５	〈Warm-up〉 ・words practice　ペアで発音練習 〈本時の課題を確認する〉 (音楽の授業の様子を撮影した動画を見る) ・What are they doing ?	(本時のめあてを明確にし、見通しを持たせる) →They are playing the original instrument.	
	課題：普段の学校の様子をクイズ形式で伝え合おう		

25	＜Activity①＞ ・事前に撮っておいた動画の様子を表すプラス１文を考える。 ・動画を見せ合い、動画の中の人物が何をしているかについて答え合う。 A:What is he doing ? B:He is studying..? A:He is writing English words. He likes English. ・発表ノートに貼り付け、ペアで動画を共有する。 ・ペアを変え、一つ動画が増えた形で動画の内容を答え合う。 ・動画を共有し、４つの動画を持つ。 〈Activity②〉 ・４人グループになり、動画の内容を発表ノートに書き出す。	・事前に動画の内容を表す現在進行形の文は書かせておく。 ・プラス１文は単語をメモさせる程度にする。 ・相手の情報をメモする。 ・タブレットの発表ノートを配布する。 ・主語を変える必要がある場合に注意する。 ・メモをもとに動画の内容を答える。 ・わからない部分はグループのメンバーで補い合う。 ・be 動詞＋一般動詞のｉｎｇ形がとれているかを意識する。	・動画の人物が何をしているかについて、ペアで伝えあうことができる。 【思考・判断・表現】 （観察・発表ノート） ★机間支援で理解が遅れている生徒には、発表ノートの共有を促す
10	〈Closing〉 Q：What is he doing ? A：He is reading a book.　He likes books. ・フリーでペアを作り、４つの動画を紹介する ・Let’s start quiz show ! ・本時の振り返りを記入し、提出する。	・今日言えるようになった表現を１つ、自撮りして貼り付ける。	

Memo Sheet

Lesson 5 School Life in the U.S.A　Part 1（2）

主題：アメリカにいる Kameyo 先生の友だちに日本の学校の様子を伝えよう

本時の課題：普段の学校の様子をクイズ形式で伝え合おう

Q：What am I doing ? / What is he(she) doing ? / What are they doing ?

A：＊内容をメモしよう 、その人物を説明するプラス1文を考えよう

自分の動画の内容

（～しているところです）
（プラス 1 文）

ペア①の内容

（～しているところです）
（プラス 1 文）

ペア②の内容

（～しているところです）
（プラス 1 文）

ペア③の内容

（～しているところです）
（プラス 1 文）

令和４年度　郡市活動報告

能美市（郡）

報告者：能美市立寺井中学校
筏井　ゆかり

■　令和４年度郡市研究テーマ
豊富な英語のやり取りにあふれた教室

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
・　４月２０日（水） 会場（福岡小学校） 時間（１５：４０～１６：４０）	・組織作り ・研究テーマ決定、年間活動計画の確認 「案：意欲を持って学びに向かう英語教育」 →「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」 ・小中別研修会
・　８月３日（水） 会場（福岡小学校） 時間（１３：３０～１６：００）	・東京書籍によるオンライン講演 ①小中合同（３０分）・・・小中連携について ②小中別（１時間）・・・デジタルブックの紹介、教科書の使い方、指導の方法、学習者用デジタル教科書について
・　11 月 16 日（水） 会場（根上中学校） 時間（１３：３０～１６：００）	・根上中学校　四間丁教諭による研究授業参観 単元：New Horizon1 Unit8 Story2 現在進行形の疑問文 Talk and Talk 24 ・授業整理会 ・授業実践交流
・　２月２２ 日（水） 会場（福岡小学校） 時間（１５：４０～	年度総括と次年度年間計画の作成

■　成果と課題

・第２回に行われた東京書籍によるオンライン講演では、新しい小中英語教育において、これまでは中学校で学ぶ内容が小学校で扱われることを踏まえ、どう指導していけばよいかを考えることができた。また、小中分科会では児童生徒用のデジタル教科書の効果的な使い方について学び、授業や家庭学習に生かすことができた。

・第３回に行われた根上中学校四間丁教諭による研究授業参観では、現在進行形の疑問文を Talk and Talk 24 を用いた授業を参観した。授業が始まる前から英語のやりとりが始まり、生徒たちが意欲をもって学ぶ姿があり、その授業に至るまでのプロセスなどもお話いただいた。より実践的な対話になる工夫などについても話し合われ、有意義な研修となった。

・毎回の会の終わりに小学校・中学校各学年に分かれて実践交流をすることで、今後の授業作りに生かすことができた。

・「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」に向けて、能美市の小中英語科全体で取り組めるようなことができたら良い。

能美市学校教育研究会　第３回教科等研究会「英語・外国語」資料

日　時：令和４年 11 月 1 日（水）第５限
指導者：四間丁　由起子
ALT キャサリン・エアス・カー
場　所：根上中学校１年１組

単元名：New Horizon 1
（本時）Unit 8 Story 2「現在進行形の疑問文」
教材名：Talk and Talk Book 1（正進社）

本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 5	前時の振り返り	be 動詞の疑問文の作り方と同じであることを確認する。
展開 ４０	Talk and Talk 24 《本時の学習課題》今していることについて、たずねたり答えたりすることができる。 ・モデル文を読み、どんな内容なのかペアで考える。 ・２、４、５番の語句をモデルダイアログの下線部と入れ替えながら、ペアで口頭練習する。 ・ノートに書く。 ・自分でまちがい探し＆直しをする。 ・先生 or ALT に添削してもらう。 ・正しく書けたものの内、２つを音読練習する。 ・インタビューテストを受ける。 ・合格したら、合格シールをもらう。 ・残りの１つを正しく言えたら、teacher になりクラスメイトをサポートする。	・教師が計時しながらモデルを見せる。 ・Talk Boost を読む。 ・わからない語句は、Glossary で調べさせる。 ・Chromebook を使って、モデルに近づくように練習してからタイムを計るようにする。 ・teacher には、困っているクラスメイトに積極的に助けるように声掛けする。
終末 5	適応題をする。（３番）	

令和４年度　郡市活動報告

白山市

報告者：白山市立北星中学校
熊谷　卓人

■　令和４年度郡市研究テーマ

『英語学習及び外国語活動における基礎・基本の徹底 』
～小・中学校の相互理解と連携の推進をめざして～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
６月　８日（水）	第１回研修会 講義　「学習者用デジタル教科書の効果的な活用について」 講師　東京書籍株式会社　吉本　哲専　氏 橋本　宏和　氏
８月　３日（水）	第２回研修会 協議　学習者用デジタル教科書の活用についてのグループ協議 ①授業での活用、授業以外での活用 ②２学期からの活用の場や活用の方法について 指導・助言　白山市教育委員会　手取屋　直枝　指導主事 協力　東京書籍株式会社　吉本　哲専　氏 橋本　宏和　氏
１０月１２日（水）	第３回研修会 研究授業（小学校３年　外国語活動）及び研究協議会 授業者　松陽小学校　濱野　真衣　教諭 指導・助言　白山市教員委員会学校指導課 手取屋　直枝　指導主事

■　成果と課題

今年度はオンラインでの研修ではなく，部員が一つの会場に集うことができた。対面で質問や意見を交換し，その場で共有できたこと，児童の反応や表情をその場で感じることができたことが成果である。また，デジタル教科書に関する全２回の研修会では使用方法をはじめ，使用例や他校での実践例などを共有することで，デジタル教科書を使用することに新たな可能性を見出せたという意見もあった。今後も小中を交えての研修会や研究授業を重ねて更なる連携をしていき，デジタル教科書の活用をしていくことが課題として考えられる。

■　白山市学校教育研究　第３回研修会資料

第３学年　外国語活動学習指導案　令和４年１０月１２日（水）第５限　指導者　濵野　真衣

単元名　　Let’s try！1 Unit6 ALPHABET

　　学年でもっと仲良くなろう！私はだれでしょうクイズ大会を開こう！

ねらい　　クイズを作るために、姓名の頭文字などついて相手に伝わるように工夫しながら伝え合う。

【思考力，判断力，表現力等】

展開

学習活動、主な発問等（〇） 予想される児童の思考（・）	時	指導（〇）と評価（【　】） C→B の手立て（※）
１．Greeting&Sing songs&Chant 〇Hello! How are you?　I’m ~.	5	〇見通しを持って学習をするため、掲示したゴールの“Who am I ?” クイズを確認する。
２．Target ＜相手に伝わるように工夫しながら必要な情報について伝え合おう＞	5	
３．Activity① 〇Do janken. (winner: Q / loser: A) クイズに必要な情報をたずねてみよう。 C1: What sport do you like? C2: I like dodgeball. C1: 他何聞いたらいいのかな	10	〇クイズづくりに必要な情報を判断するため、まず一度既習の表現で尋ね合いを行う。
〇何を聞いたらクイズができそうかな？ C1:すきなアニメ！		〇考えたくなるクイズをつくるために、既習表現の確認とイニシャルの聞き方や答え方を確認する。
〇なんて聞くのかな？ C1: What anime do you like? C2:ほかにも“Do you like~?” で好きかきらいか聞けそう。 C3:イニシャルがあるといい！		〇表現に慣れ親しませるために、グループ内でペアを変えて複数回やり取りする。
〇イニシャルの聞き方は… A: Your initials, please.		〇相手に伝わるように工夫するために、スカイメニューのアルファベットシートを活用し、その場でお互いにアルファベットを確認する。
４．Activity② (SKYMENU) 〇Let’s make initial quiz. First, make pair in your group. イニシャルを聞いたら、〇をつけよう。 C1: Hello!　C2: Hello! C1: Your initials, please.　C2: I am “A” and “H”. C1: OK?（アルファベット表から囲む）　C2: Yes. C1: What game do you like?　C2: I like マリオ. C1:マリオ！Me too! Thank you.　C2: See you.	20	〇足りない部分を補ったり、新たに表現を付け加えたりするように、ペアワーク後、中間評価を行う。
〇どんなところがよかったかな？ C1:挨拶をしていていいね。くりかえすのもいいね。 C2:画面を見せて確認しているね。ジェスチャーがあるよ。		〇友達の良いところを取り入れて、話し方ややり取りの内容の充実を図るために、ほかの既習表現を使ったりジェスチャーを入れたりしているペアを全体に広める。
５．ふりかえり（ワークシート） ・グループの３人にイニシャルやすきなものを聞いてクイズを作れたよ。 ・だんだんうまくたずねることができるようになった。 ・イニシャルを一回で正しく聞けたよ。合っているかたしかめる反応もできたよ。	5	話すこと［やり取り］【思】 （行動観察・タブレット・振り返りシート記述点検） ※後半の活動に生かすことができるように、中間評価をして会話のモデルとなる良いやり取りの具体例を示す。 〇次時につなげるために、単元のゴールを改めて確認する。

令和４年度　郡市活動報告

野々市市

報告者：野々市市立野々市中学校
竹田　さくら

■　令和４年度郡市研究テーマ

小学校外国語科：・外国語活動を通して、積極的にコミュニケーションをはかろうとする児童の育成
中学校：対話的な活動を通したコミュニケーション能力の育成

小学校と中学校の効果的な接続を意識し、“積極的な交流”から“対話的な活動”をキーワードに、生徒たちのコミュニケーション能力の育成をめざす。

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月２１日（木）	研究部会① 内容：各部組織会および年間計画案決定
６月１６日（水）	研究部会②（研究授業等） 内容：実践事例を持ち寄り、情報交換
８月１８日（木）	夏季全体研修会（教育講演会） 研究部会③ 内容：8 地区研究発表会にむけてテーマ決定
１０月１２日（水）	研究部会④ 時間：１４：００～１４：４５ 場所：野々市市立富陽小学校 内容：富陽小学校　豆野教諭による研究授業、授業整理会 参加者：１８名
1 月１６日（水）	研究部会⑤ 内容：来年度の研究にむけて、小中のゴールの確認

■　成果と課題

（１）成果

テーマに基づいて、研究授業の授業整理会などを通して活発に意見交換を行うことができた。小中を連携してテーマに基づき英語科のゴールを確認したり、ICT 機器を活用しながらコミュニケーション能力の育成を目指すために、共通で使用できそうな教材・教具について考えたりすることができた。中学校では 8 地区研究発表会にむけても同じテーマで取り組み、学校間で協力して発表することができた。

（２）課題

多くの課題があるため、個人レベル、学校レベルで実際に日々の授業で課題と思われるところの“つながり”を大切に分担して取り組むなど研究部部会で一つの課題について追及していくことを共通理解した。

５年２組　外国語科学習指導案

日時：令和４年１０月１２日（水）第５限
授業者：豆野　元春（JTE）
　　Christine Yule Sita(ALT)
場所：３階 WR（ワールドルーム）

１．単元名　野々市市のおすすめスポットへの道を案内しよう
　(Unit 名)　「Unit 5 Where is the post office?」
５．本時の学習（第２次中１時）
（１）ねらい
　「It’s on/in/under/by/ the △△.」の表現を用いて、相手に物の位置をわかりやすく伝えている。
【知識及び技能】ア、話すこと〔やりとり〕
（２）準備　chromebook（ミライシード：オクリンク）学習計画掲示
（３）展開　　●研究に関わる手立て

時	主な学習活動（○発問）と児童の意識の流れ（・思考）	指導（・）と評価（【　】）＊C→B の手立て
8	**１．Shall I Talk** ○What is your favorite room in Fuyo? ・My favorite room is the Music room. ・My favorite room is our Classroom. ・My favorite room is the Science room. ・1st floor , 2nd floor, 3rd floor **２．課題をつかむ** ・ゴールは「ALT に野々市市のおすすめスポットとそこまでの道を案内しよう」だったね。 ・町の中にある場所を紹介する前に、まずは部屋の中にある物の場所を伝えられるようになることから始まるよ。 ・どのように言えば相手に伝わるのかな。 **〈ものの場所を伝えるにはどうすればいいのかな〉** **３．表現に慣れ親しむ** ○どのように表現すればよいのかな ・「on the desk」ってどこのことなのかな。 ・「～のそば・～の中・～の下・～の上」のどれだろう。 **４。交流する** ペア交流① ・「～の中」は「in the ～」を使うよ。 ・「壁に掛ける」は英語でどのように言うのだろう。 ～中間指導～ ペア交流② ・「壁に掛ける」は「On the wall.」で伝わったよ。 ・「もう少し右」などの細かい注文もできるかな。 **５．振り返り** It’s on /in/under/by the △△.を使って、相手に物の場所を伝えることができたよ。	・本時の活動で使う表現の「Where is the ～」に慣れ親しませるために、Small Talk の話題である一番お気に入りの教室を紹介した際、教師側から何度もこの表現を使いその教室がどこにあるのかを児童に問うことで、その表現のもつ意味に自然と慣れ親しませる。 ・単元のゴールと本時のねらいについて明確にするために、学習計画掲示に注目させる。 ・「on/in/under/by」の表現に慣れ親しませるために、ALT の要望に合わせた家具の配置を児童に考えさせる。 ●視覚的にわかりやすくするためにオクリンクを使い、相手の要望に合った家具配置の絵を送り合う。 ・より多様な表現の仕方に慣れ親しませるために、先の交流で英語で言いたかったけど言えなかった表現を紹介し合う。(中間指導) 【知・技】「it’s on/in/under/by the△△.」の表現を用いて、相手に物の位置をわかりやすく伝えている。話すこと〔やりとり〕(ア)（発言・振り返り） ＊黒板に（on/in/under/by）の意味を視覚化したカードを貼り、どれが使えそうかを確認させる。

令和４年度　郡市活動報告

金沢市

報告者：金沢市立泉中学校
安江　靖子

■　令和４年度郡市研究テーマ

言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する授業づくり
～金沢型学習スタイルをベースに～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
５月２０日（金）	発足会 ・部長挨拶　・幹事長挨拶　・研究テーマ決め　・組織について
６月１４日（火）	デジタル教科書研修会 講師　東京書籍（株）北陸支社　吉本哲専様
８月２２日（月）	（研究部、スピーチコンテスト委員会のみ） （研 究 部）・県小中英研　８地区研究発表会について協議 ・１１月の研究授業の指導案について協議 （スピーチ）・１０月のスピーチコンテストの運営について協議
１０月８日（土）	第４９回 英語スピーチコンテスト
１１月２５日（金）	研究授業 城南中　碓井　浩子教諭　Unit 7　World Heritage Sites

■　成果と課題

諸先輩方が運営してこられた中教研で、今年度より幹事長となって研究を進めていくにあたり、「市内１００名を超える先生方が少しでも日々の授業にいかせそうだと思ってもらえる会にしたい」という思いはあったものの、どのようにして進めて良いのかわからないままスタートした。しかし、デジタル教科書研修会で東京書籍の方から直接お話を伺い、授業での活用方法についてグループ討議を行ったこと、研究部で研究授業の指導案から練っていくプロセス、スピーチコンテストで下級生の学びになるよう３年生のスピーチの様子を見せられないか先生方で協議し実施したこと、そして県小中英研での８地区発表会に向けて研究部の先生方の実践を共有してそれをまとめていただいたことなど、多くの先生方のご尽力をいただき、参加された方々にとって英語科教員として研鑽を深める会になったのではないかと思う。先生方と話すきっかけづくりができ、なにより私自身が大変勉強になった１年であった。

今年度もコロナウイルス感染症拡大予防の観点から、各校１名という制限のある中でスピーチコンテストや講演会、研究授業をおこなった。しかし、このような学びを、１人でも多くの先生方と共有できるよう、来年度も開催を工夫し、金沢市の先生方の実践を広げていきたい。

第２学年３組　英語科学習指導案

令和４年 11 月 25 日(金)

指導者　　碓井　浩子

１．単元名　　New Horizon English Course 2　Unit 7 World Heritage Sites

２．本時の学習［第一次中１時］

(1) 小単元名　　Scene 1

(2) ねらい　　受け身の文の形・意味・用法を理解し、金沢の有名な場所や食べ物などを主語にして受け身の文を書くことができる。

(3) 学習過程

段階	時間	学習活動と予想される生徒の反応(〇)	指導上の留意点(・)　評価(◎)　支援(◇)
導入	5	1　デジタル教科書で音読練習する。 ペアで音読確認する。	・自分達のレベルに合った音読か確認する。 ・ペアで協力して練習することを促す。
		つかむ	◇机間指導をして必要に応じて支援する。
	7	2　教師とのやりとりで学習課題をつかむ 〇何て意味だろう？「～される」かな？	◇単元末についての見通しを持たせる。 ◇視覚教材を用いて受身の文を想起させる。
		課題　＜ 外国人〇〇人に聞いた！金沢のおもしろランキング！～ベスト３を予想せよ～ ＞	
展開	5	**考える**	
		3　全体で画像を見ながら口頭で、受け身の文を作る練習をする。	・受身の文を正確に用いているか確認する。 ◇必要に応じて受身の文の構造を指導する。
		伝え合う	
	３０	4　練習した表現を使って１位を予想する。 （①名所　②体験　③食べ物） 〇Kenrokuen is visited by 50 people. Wagashi is made by 46 people. 〇by～＝～によって	・スライドを使ってペアを変えながら練習する。 ◇必要に応じて机間指導する。
		深める	
		5　クラス全体で結果発表。 6　クラス全体で順位を発表する。 4、5、6を①→②→③と３回繰り返す	・クラスの結果を集計する。 ・代表者を選ぶ。 ・生徒が人数をいれて発表する。
終末	3	**まとめる**	◎受身の文の形・意味・用法を理解し、金沢の有名な場所や食べ物などを主語にして受け身の文を書くことができる 【知識・技能】(オクリンクスライド)
		7　印象に残ったランキングを受け身で書く。 〇うまく発言し、書けた。 〇受け身の文が難しかった。	
		まとめ ＜Kenrokuen is visited by 50 people.　Mizuhiki is experienced by 34 people. ＞	
		8　本時のふりかえりをする。	

令和４年度　郡市活動報告

河北郡市

報告者：かほく市立高松中学校
北村　菜月

■　郡市研究テーマ

英語によるコミュニケーション能力の育成
～「自分の考えや気持ちを伝える力」を高める指導法の工夫～

■　年間の活動内容

日　　時	会　場	主　な　内　容
４月２０日（水） １５：３０～	高松中	組織会 研究主題の設定、年間計画の作成 県小中英研について
６月　１日（水） １５：００～	高松中	講話:「英語によるコミュニケーション能力の育成について」 金沢教育事務所　上野　郁子指導主事
１０月１２日（水） １４：３０～	宇ノ気中	県小中英研　秋の研究大会　公開授業 授業者　永井　俊和 教諭（宇ノ気中） 授業整理会及び講評
１月１１日（水） １５：００～	高松中	研究のまとめと次年度に向けて 県小中英研　８地区研究協議会 実践報告　品川　恵美 教諭（津幡中）

■　成果と課題

【成果】

今年度、石川県小中学校英語教育研究会　秋の研究大会において、河北郡市教育課程研究会外国語部会が公開授業を担当することになった。そこで、４月の組織会において宇ノ気中学校　永井 俊和 教諭が研究授業を行うことに決定した。また、１１月には、石川県小中英研８地区研究協議会も開催されることもあり、本郡市において、「指導案検討委員会」と「実践報告検討委員会」を設立し、各校の代表者が構成員となって、指導案の検討会や、実践報告用の、授業風景の動画を取り込んだプレゼンの検討会などを計画的に開催し、授業者や報告者の負担軽減や組織としての発表となるよう、支援体制を作って取り組むことができた。

教科書改訂され２年目の今年、ICT 機器を用いて活動を進める場面が授業の中でも多くを占めるようになってきた。教師は課題解決のために、単元ごとで ICT 機器を効果的に使用する場面を考えながら授業研究を常に行ってきた。教師側がいつも ICT 機器を使ってきたからこそ、生徒達も臆することなく容易に ICT 機器を使えるようになってきている。ミライシ

ードやJamboardだけでなく、他にも生徒が使えるツールがまだまだある。生徒達が英語を活用できるための手立てとして、ICT機器をどのように使っていけばよいか、今後も本研究会の中で共有し、より良い授業実践に繋げていく必要がある。

【課題】

本郡市は「自分の考えや気持ちを伝える力」を高める指導に重点を置いた研究を進めてきている。特に今年度より、県小中英研のテーマが「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」と設定された。自分の考えや気持ちを、より様々な英語を用いて伝えられるかが鍵となる。言語活動を一度生徒にやらせてみて、指導をし、もう一度言語活動をすることで、生徒がより豊富な英語を使っていくことができるような繰り返しの指導が大切である。そのためには、「教師が教えすぎないこと」と、「目的・場面・状況を意識し、言語活動を通して英語を習得させること」を心がけなければいけない。教師は英語が苦手な生徒のために、たくさんの情報等を与えてしまいがちだが、活動をさせてみて、その後に指導するというように、できるだけ生徒達自身の力で考えさせることが重要である。また、他者に伝えたい内容があってこそ、英語で本当の自分の考えや気持ちが表現できる。生徒どうし、教師と生徒間の自然な英語でのやりとりを通して、授業の最初に目的・場面・状況を明確にし、生徒が把握して言語活動へうつる必要がある。教師が「教える」授業から、生徒が「学ぶ」授業へとなるよう、生徒が主体となって英語を習得できるような授業が求められている。研究主題に基づき、研究実践を重ね、いかに郡市全体で課題意識をもって取り組んでいけるかが課題と考えられる。

■　第２回河北郡市教育課程研究会（６月１日）

【研究協議（実践報告会）】

１１月３０日(水)、県小中英研８地区研究協議会に向けて、各校の授業実践の発表を行った。県小中英研の共通テーマである、「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」に基づき、「やり取り」「発表」「即興性」「アウトプット」等をキーワードにした授業風景(生徒の活動)を撮影した動画を視聴し協議した。

動画の中では、ターゲットとなる文法を用いての言語活動だけでなく、たくさんの生徒と練習した後、最後に応用として ALT と話す機会を設けるといったような場面もあった。また、生徒がALTと１対１で、あるテーマについて英問英答する場面や、カード等を用いて即興で自分の考えを英語で話さなければならないような授業風景もたくさん見られた。動画視聴や発表を通して、郡市の研究主題「自分の考えや気持ちを伝える力」を高める授業が、各学校で少しずつ実践されてきていることがわかった。

■　第３回河北郡市教育課程研究会　兼　石川県小中英研　秋の研究大会（１０月１２日）

【　研究協議（研究授業の要点）　】

宇ノ気中学校　永井　俊和　教諭　研究授業

２年生「Unit 4 Homestay In The United States」を題材とした授業であり、「日本の習慣やマナーについて、簡単な語句や文を用いて、伝え合ったり書いたりして表現することができる（思考力・判断力・表現力)」ことをねらいとしていた。本時は、Unit4の最後で

ある Unit Activity で、様々な助動詞の使い方を理解した後の授業である。教科書では、「日本の習慣やマナーを伝えよう」という内容になっているが、本時では「初めて旅館に泊まる観光客に、ルールやマナーを伝えるためのアドバイスを考えよう」という課題で授業を行った。帯活動としての Small Talk では、「ホテルと旅館のどちらに泊まりたいか」という内容でペアで対話をし、課題につながるようなキーワード等を確認し、共有していた。その後、宇ノ気中学校の ALT が日本の旅館に泊まった時に困ったことを答えたインタビュー映像を視聴し、ALT が困っていた内容を英語で共有した。

生徒は３つのトピック(footwear、*yukata*、*futon*)の中から１つ選び、それに対するルールやマナーを個人でまず考え、それを英語で伝えるためにキーワードを Jamboard に上げた。その後、教師側がいくつかの良い表現を取り上げ、全体で共有した。実際の旅館の HP や案内のリンクを生徒に与えることで、より使える表現を生徒も知ることができた。最終的には、自分が選んだトピックについてのアドバイスを相手に伝えた上で、まとまりのある英文で書くことができていた。

授業後の整理会では、思考ツールとしてタブレット端末を利用したことで、生徒の表現の幅が広がったという意見が多かった。ただ、Jamboard の内のキーワードの単語が難しいからか、英語よりも日本語の方が比較的多かったことや、ペアで英語を話す時以外、あまり生徒が英語を使用していないのではないかということが課題として出ていた。タブレット端末を用いると、操作に時間がかかり、英語を使用する時間が確保できないこともあるが、生徒に英語を習得させるということを意識し、時間のバランスを考えて ICT 機器・タブレット端末を使っていく必要がある。

【 自分の考えや気持ちを伝える指導法の工夫 】

ペアを最初から３パターン決めていたことにより、生徒は次に誰と話せばよいかしっかりと理解できていた。また、ペアを何度もかえて話すことにより、間違いを正すことができ、最終的に自分が話したいと思っていたことを英語で話すことができていた。教師側がオールイングリッシュで常日頃から進めていることで、生徒たちも一生懸命難しいながらも英語を使おうとする姿も多く見られた。さらに、生徒に一度英語で対話させてみて、教師が中間評価をし、良い表現等を全体共有してからもう一度取り組ませるというスタイルがしっかりと定着していた。より良い表現を生徒自身が習得するための時間を確保できていたと言える。

課題としては、旅館に宿泊したことがない生徒がこの課題に取り組むには少し難しいと感じる可能性も考えられるので、生徒も場面や状況を理解できるような手立てが必要だった。また、ペア活動において、英語を終始話すことができなかったペアもあったので、生徒の良い表現を単語だけではなく、フレーズや文を黒板に書いて共有するなど、苦手生徒に対してもう少し踏み込んだ支援も必要だという意見もあった。授業の最後に、ALT に実際アドバイスをする場面があると、まとめとしてより効果的だったのではないかということも話された。全ての生徒に確実に英語力を付けさせるという意味では、授業の中でたくさんのことを教師側が支援していかなければならないということを改めて感じられる授業であった。

令和４年度　郡市活動報告

羽咋市

報告者：羽咋市立邑知中学校
杉森　優子

■　令和４年度郡市研究テーマ
「豊富な英語のやりとりにあふれた教室～OUTPUT を引き出すための ICT 活用～」

■　年間の活動内容

月　日	会　場	内　　容
４．１３	邑知小学校	部会組織の決定・研究主題と推進計画の決定
６．　８	邑知中学校	情報交換
１０．２１	羽咋小学校	研究授業　６年生 Unit 5 We live on the Earth 授業者　羽咋小学校　吉川　照代　講師
１１．１６	邑知小学校	今年度の研究のまとめと反省

■　成果と課題

【成果】

・６月の実践交流では，ICTを活用したコミュニケーション活動が各学校から多く紹介され，共有することができた。ICT活用の具体的な例（ムーブノート，オクリンク，Quizlet，発表動画撮影，英検対策アプリなど）が挙げられ，その後の実践に活かすことができた。

・１０月の研究授業では，オクリンクで絵カードを動かしながら生き生きとやりとりする児童の姿が見られた。授業の組み立て方（活動の流れ），ICTの活用法，評価方法など学ぶ点が非常に多かった。

・この１年で児童生徒も教師もICTの操作に慣れ，スムーズに活動できるようになり，児童生徒の活動量が増えた。

・話す活動の動画を送ってもらうことで，教師が評価・指導に活かしたり，児童生徒自身が現在と以前の動画を見比べることで，学習意欲や自己肯定感を高めたりすることができた。

・教師は児童生徒の作品を一斉に見ることで，発言の少ない児童生徒の声も拾うことができ有効であった。

・全員の作品を授業時間内に確認することは困難だが，様々な表現や共通する間違いなどを全体共有し，紙に書き直すことで，よりよい表現につなげることができた。

・ALTの動画を児童生徒に配信することで，各自が発音・表現を確認することができた。

・フォームでアンケートを取り，児童生徒が発表方法を自己決定することで，課題に対しさらに意欲的に取り組む様子が見られた。

【課題】

・「操作に時間がかかる」「各自がタブレット操作をしている」などの理由から，本来大切にすべきコミュニケーション活動の時間が充分とれない面があった。

・何度も同じ表現を繰り返し練習し，アウトプットさせることが定着に繋がる。児童生徒の興味，関心が高い課題を設定し，ICT を活用しながら，相手意識を持った活動を十分確保していくことが課題である。

＜羽咋小学校　６年生　Unit５ We all live on the Earth 吉川照代先生の授業から＞

【導入場面】

歌やチャンツ，前時の単語練習や small talk などたっぷり１５分間アウトプットしていました。Small talk のテーマは午前中に行われたマラソン大会でした。既習表現 How was the marathon?の定着を図り，対話を続け深めるのが目的です。

【展開場面Ⅰ】

JTE と ALT のやり取りを聞いて，本時の課題「生き物が何を食べ，どこに暮らすのかをたずね合おう」を確認しました。

T: Where do lions live?

S: They live in savanna!

【展開場面Ⅱ】

ペアで ICT 端末を操作しながらやり取りを行いました。先生から送られてきた絵カードを組み合わせて，飽きずに楽しく練習しました。言い方がよく分からない人は，ビデオで ALT の先生の会話例を確認しました。

S1：What do lions eat?

S2: They eat meat.

S1: That’s right!

【適応・習熟】

今日練習した会話をビデオ撮りして先生に送り，最後に，全体でいくつか紹介しました。みなさん，よくがんばりました！

ICT を効果的に活用し，児童の発話量をしっかり確保していました。とにかく，児童がいきいきと，意欲的に，大きな声で話しているのが印象的でした。素敵な授業で，とても参考になりました。

令和４年度　郡市活動報告

羽咋郡

報告者：宝達志水町立宝達中学校
北　美香

■　令和４年度郡市研究テーマ
英語で伝え合い、コミュニケーションを図ることができる実践的英語力の育成
～小中連携の充実を図る～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
4 月 27 日(水)	・部会組織、事業計画，及び予算作成等
11 月 15 日(火)	・第 1 回研修会 研究授業 New Horizon2　Unit5：Universal Design 授業者　塩谷　直輝　教諭 ALT　　Heather Strong

■　成果と課題

【成果】

生徒が Universal Design の特徴を具体的につかみ、それらを説明するために英文を考えさせるものであった。さらに Chromebook や ICT 機器を有効に使い生徒の考えを引き出し、まとめ、発表に繋げていた。個別の学びの場面や、協働的な学びの場面、塩谷教諭や ALT の支援も見られ、生徒が自主的に活動する様子が見られた。生徒が考察し、表現すべき内容のレベルは非常に高いものであった。また、塩谷教諭は授業での指示はほぼ英語で行い、生徒もそれを理解し、分からない内容は生徒が教え合いながら活動を行うことができていた。ICT 機器を効果的に使い、生徒自らが自主的に学ぶ授業であった。

【課題】

教師の発話量が多く、生徒の活動量の不足が感じられた。言葉での説明の量を減らし、可視化するなどして、活動量を増やす工夫が求められる。

配時	学習活動〈学習形態〉 ・予想される生徒の反応	支援（○）と評価場面・評価方法（◇） JTE	ALT
2	1．あいさつと日付などを確認する。		
1	3．本時の課題を確認する。〈一斉〉		
	自分の周りにあるユニバーサルデザインについて，メモを基にして特長を伝え合おう		
8	4．教科書 P.77 のユニバーサルデザイン（以下 U.D.）の特長をまとめた表を完成させる。〈ペア活動〉	○後の活動につなげるために，教科書 P.77 の Round2-2 の答えを確認する。	○ただの答えの確認であるが，英語で質問し，英語のやり取りをする。
8	5．自分たちの身の回りにある U.D.の例をひとつ選び，２ページあるパワーポイントの共有ページの１ページ・「A」上でキーワードを書く。 〈オンラインでのグループ活動〉 ・どうやって説明すればいいの？ ・教科書の単語を参考にして書いてみよう ・Unit5 で習った文は使える？	○既習の英文を使って，ものの特長紹介する文を英語で表現する。［学びの 12 か条＋②］	Do you have any advices to me? ○英文を確認し，正しい表現を伝えヒントを与える。
	everyone / use ・Everyone can use this toilet. school / highway ・There are at school and parking areas on the highway.	・ユニバーサルデザインの特長について，班の生徒の意見を参考に，メモを書き込むために PowerPoint の共有ページを使う。①	
		・英語で表現することが難しい内容も，「１・２年で学習した内容でなんとか表現する」という目的を持たせ，工夫して表現させるためのヒントや語句を与える。㊧	
6	6．自分が書いたメモをもとにして，グループ内のペアで対話する。 【富来アカ TIME】 〈オンライングループを実際の席で班編成して活動〉	・メモを見ながら，書かれた情報を整理して対話活動につなげる。①	
3	7．ボランティアの生徒が，全員の前で発表する〈一斉〉	○自分が書いた文も活用し，ものの特長を紹介する文を即興的に表現する。［学びの 12 か条＋ ②］	What do you think about the universal design product?
7	8．友達の対話や発表を聞いたうえで，もう１枚の共有ページ「B」の上に追加のメモを書きこむ。 【富来アカ TIME】 〈オンラインでのグループ活動〉 ・ここはこういうことを言えばいいんじゃない？ ・発表で聞いた文を参考にして，アドバイスを書いてみよう		
	・We have to know … ・how to use ・If you … ・it is … to … ・I'm sure that …	・「主体的・対話的で深い学び」の実現のため，メモや，友達からのアドバイスをもとに，自分の英文を見直して発表につなげる。㊧	

令和４年度　郡市活動報告

七尾市

報告者：七尾市立七尾中学校
山邉　真悠子

■　令和４年度郡市研究テーマ
「自分の思いや考えを表現できる児童・生徒の育成　～言語活動の充実を通して～」

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月２０日（水）	○今年度の研究テーマについて ○活動方針，年間計画の確認
５月１１日（水）	○各校の実践内容について ○研究授業における言語活動について
６月　８日（水）	○講義・演習「授業におけるデジタル機器の効果的な活用について」 指導助言：中能登教育事務所　山森　和子　指導主事
１０月１９日（水）	○研究授業に向けた指導案検討会
１１月１６日（水）	○研究授業（七尾市立中島中学校：藤原 香 教諭） New Horizon English Course 3 Unit 5 A Legacy for Peace ガンディーの功績と受けつがれる理念 ○全体会 指導助言：中能登教育事務所　山森　和子　指導主事
１月１８日（水）	○今年度の振り返りやまとめ ○デジタル教科書の効果的な活用方法について

■　成果と課題

・タブレット等，ICT を活用した授業での課題について協議したり，デジタル教科書の効果的な活用方法について指導主事から講義・アドバイスをいただいたりした。生徒にどのようにタブレットやデジタル教科書等，ICT を活用させるかについては，これまで教師側が迷ったり躊躇したりしてしまう場面も多かったが，様々な具体例を聞く中で，もっと気軽にどんどんチャレンジしていくことが大切だとわかった。研修後は各校で試行錯誤しながらも，生徒が ICT を活用し，表現する場を授業の中で設定している。

・研究授業に向けた指導案検討会及び研究授業後の整理会では，小中それぞれの視点から意見が出され，どのような授業展開を経てまとめに向かうのか，言語活動等を含めて協議することができた。また，協議を通して授業づくりにおける小中の接続についても再認識できた。

・英語科における見方・考え方のもと，小中の接続をより効果的にしていくために今後どのような方法での連携や共通実践が必要かを考え，研修を続けていく必要がある。

■　研究授業の記録

１．期　日　　令和４年１１月１６日（水）

　　指導者　　藤原　香　教諭

　　会　場　　七尾市立中島中学校

２．単元名　　New Horizon English Course 3

　　Unit 5 A Legacy for Peace ガンディーの功績と受けつがれる理念

３．本時の学習

（１）目標

ペアでのやり取りを通して，必要な情報を整理したり表現を工夫したりして魅力がより伝わる紹介文を書く。

（２）指導上の工夫点

・自分の思いや考えを表現するためにペアでの活動を複数回重ねる。

・ICT を活用し，生徒が各自の端末で図やイラストを用いながら考えを整理する。

４．研修会の記録

（１）事前研修より

・生徒に表現させる内容を精査する。（社会的な内容を含んだものに）

・学年に応じた発表にするために，発表方法でなく伝える内容に指導の重点を置く。

（２）授業整理会より

・Warm-up では既習の表現や関係代名詞の使い方を復習する時間が設けられた。大変和やかな雰囲気の中で，生徒たちは互いに教え合ったり確認し合ったりしており，本時に向かう意欲が高まっている様子だった。

・内容面を充実させるために行う対話活動に関しては，「教師が意図的にリストアップした英語の質問リストを配布してはどうか」という意見が出された。また「自分の考えや思い」を引き出す手段を工夫することで，その生徒にしか書けない文章が書けるのではないかという意見もあった。

＜中能登教育事務所　山森 和子（英語科）指導主事より＞

・Warm-up では短時間で「聞く」「話す」の活動を効率よく行う。

・Activity では生徒に考えをメモで整理させる。また事前に見取りを行い，次の指導に生かすことができるようにすることが大切である。

・教師がマッピングモデルを示し，生徒が気づかなかった視点に自分自身で気づくきっかけを与えていく。また，単元のゴールに向かって言語活動に取り組ませながら必要とする力を高めていくことを意識する。

・生徒自身が自らの変容に気づく手段として ICT の活用が有効である。単元の最初と終末における自分の姿を比較させたり，つながりのある単元で過去の自分と現在の自分とを比べたりすることもできる。このことにより，生徒は内容面でのレベルアップをより強く実感できると期待できる。

令和４年度　郡市活動報告

鹿島郡

報告者：中能登町立中能登中学校
釜谷　博子

■　令和４年度郡市研究テーマ

「友だちや先生とのやり取りを通して自己表現しようとする児童・生徒の育成」
～小中接続を意識して～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月２０日（水）	・組織決定 ・年間計画作成
９月２８日(水)	・各学校からの実践報告 ・情報交換 ICT の活用について・教科書の活用について 言語活動について
１月１１日(水)	・今年度のまとめ ・来年度に向けて 小中接続の接続について

■　成果と課題

１．ICT を活用したやりとりについて

〇ICT を利用することは生徒の学習意欲の向上にとても効果がある。ICT を操作したり，タブレットを使ってインタビューしたりする場面では，普段見られない意欲的に取り組む姿が見られた。

〇ワークシートに絵と対話文例があると，紙を見ながら話すことも多くあるが，タブレットにはデータ（資料や絵）のみ送られてくるので，お互いに画面を見せ合いながら話すなど，より実際に近い形でやり取りをする姿が見られた。

〇資料やカードを配付する際，画面上で行うことができるので，時間短縮になる。配付されるカードもデータで送ることができるので，数種類配ることが可能で，生徒が自ら選ぶことも可能である。

▲タブレットの準備をするのに時間がかかったり，充電がなくて活動に参加することが難しかったりする児童・生徒もおり，使う事に慣れるまでにはまだ課題が残る。また，機械の操作に一生懸命で，本来の目的である「英語を使うこと」に意識が向かない児童・生徒

も見られた。

▲特に下の学年では，タブレットを扱う技術や心構えなどが未熟なため，活動に使う時間より，タブレット操作の指導の時間の方が長くなる。学年が上がるにつれて，タブレットの操作はうまくなっていき，徐々に解消されていくが，ツールの一つとして使いこなすには時間がかかる。

２．言語活動について

〇導入の場面で，ALT と生徒とのやり取りの中で，本時で扱う本文の内容について生徒の興味や関心を高めることができた。

〇活動に入る前に，教師と ALT によるデモンストレーションを見せると，ゴールイメージがはっきりし，その後の活動でも意欲的に取り組む姿が見られた。また，活動中，うまくできているペアやグループの良い例を示すことでも意欲の向上につながる。

〇教科書の対話文を使って対話し，さらに付け加えて対話を広げる活動では，なりきって対話文を読みながら，自分のオリジナルを加えることができ，楽しい中にも，スムーズな流れで対話を続けることができた。

▲生徒がやり取りの中で伝えたいことが，実際の英語力にあっていない場面が多く見られた。パラフレーズしたり，児童生徒が使ってみたいと思う表現をいくつかヒントとして準備したりすることで，解消することができると思われる。そのためには児童・生徒の英語力の見取りが必要である。

３．課題設定について

〇少々難しい課題でも，児童・生徒の興味とマッチすれば学び合いを通して，うまくやり取りができるようになる。生徒の能力を教師が決めないで，まちがえてもチャレンジする姿を育てていきたい。

〇生徒が実際に経験することが難しい課題でも，「なりきってやってみよう(書いてみよう)」と場面設定すると，生徒の意欲は向上し，自分のことを反映して表現していた。

▲課題があいまいだと，ゴールもぶれてしまい，定着には結びつかない。与えられた時間の中で，何を重点に絞って指導するのか，教師のゴール設定が課題に反映されると活動のゴールも見えてくる。

４．小中の接続について

・年に３回の部会であるが，校種を超えて情報交換することで，小・中の枠にとらわれない，有効な活動について知ることができた。部会で集まるだけではなく，日ごろから無理なく小中での情報交換ができるとよい。

・授業実践についての情報交換だけではなく，Can-Do リストを活用するなどし，生徒が使える英語について，小学校でどこまで指導しているかを踏まえて，中学校の教科指導に生かしていきたい。

・中学校の部会参加は英語教師であるが，小学校では各学校の代表者が部会参加の形をとっている。部会で話し合った内容をどのようにして校内に広めるかが難しく，今後の課題である。

令和４年度　郡市活動報告

輪島市

報告者：輪島市立輪島中学校
西門　綾子

■　令和４年度郡市研究テーマ
豊富な英語のやり取りにあふれた教室

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月２０日（水）	組織・研究テーマ・年間計画の確認
６月　１日（水）	スペリングコンテスト　リスト検討
７月２７日（水）	各校の取組状況等の情報交換
１０月１２日（水）	講習会「即興性を意識した効果的活動」〔講師〕栗林　潤　氏
１１月　９日（水）	研究授業と整理会・情報交換
１月１８日（水）	スペリングコンテストの総括・研究集録打ち合わせ・今年度振り返り

■　成果と課題

今年度は研究主題を「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」とし、生徒の英語の発話量が増え、活発な言語活動ができる授業を目指して研究を進めてきた。１０月の講習会では、「話すこと（やり取り）」の場面で求められる即興性や話題を広げる力を養うための具体的な言語活動について学ぶことができた。また、昨年度に引き続き、英語でのやり取りを支える語彙力や基本的な文法への理解度を高めるために、市内統一スペリングコンテストや英語検定取得に取り組むことができた。

そして、今年度も英語部会と外国語部会が連携した研究授業を実施することにより、小中のつながりを深めながら研究を進めることができた。７月８日に行われた小学校の研究授業では、児童たちは、自分が行ってみたい国について、そこで体験できることなどを英語で伝え合うことができていた。Chromebook を用いて、写真を見せながら相手に分かりやすく伝えようと努力する姿も見られた。１１月９日に行われた中学校の研究授業においても、スモールステップを意識し、ペア活動を多く取り入れた授業展開により、生徒は、英語で体調について尋ねたり答えたりする対話活動に意欲的に取り組むことができた。

しかし、生徒たちは意欲的に学習した英語で話そうとしているが、即興的なやり取りとなると、うまく話せないということが課題である。講習会では、反復練習では語学は身につかないというお話があった。パターンプラクティスではなく、英語を用いる必要があると感じさせるような目的、場面、状況の設定が必要である。生徒の「英語を話したい、英語で伝えたい」という気持ちを大切にし、その気持ちを育てていくこと、そして、そのための語彙力や文法知識を適切に指導することとのバランスが特に重要であるということを確認した。

■　講習会「即興性を意識した効果的言語活動」

穴水町の中学校などで英語指導に関わっている栗林 潤 氏を講師としてお招きし、「即興性を意識した効果的言語活動」をテーマに講習会を行った。現役大学生による英語での面接練習場面などの動画を通して、社会ではどのような英語力が求められているかを学んだ。また、話すこと（やり取り）を意識した具体的な活動例について、実際に体験しながら学ぶことができた。

①　具体的な活動例

ア　Word Association Game（連想ゲーム）

お題となるカードを引き、そこから連想される言葉をどんどん書いていくゲーム。ペアや少人数のグループで行う。語彙力を増やすことを目的としている。

（例）fruits → apple → red → ketchup → mayonnaise → white など

イ　Toss’n Talk

アメリカの自助グループのセラピーなどで行われている対話の方法。１０～１５人ほどで行う。ボールを投げた人が質問をし、受け取った人が答える。

ウ　Topic chat

話題を広げる力をつけるための活動。ペアで行う。お題が書かれたカードを引き、それについて相手に質問をする。お題は、camping（キャンプ）、weather（天気）、family（家族）など様々なものを用意しておく。

②　講習会を受けて（感想）

・英語を指導する際に、聞き取りや対話などがスムーズに行われないことが悩みである。講義で「話したことのない単語は聞き取れない」「語彙力がなければ汎用的に話すことができない」ということを伺い納得した。「聞く」「読む」「話す：発表／やりとり」「書く」の５つの領域をバランス良く学習することが大切だと改めて感じた。語彙力を伸ばす活動をぜひ取り入れて、英語に関する興味を喚起できる授業展開を目指したい。

・即興性というのは、ただ早く反応し、会話することではなく、そこには内容に関心が持てることなど様々な意味が込められているということが分かった。また質疑応答の際に、生徒に英語に対する興味・関心を持たせる意識付けが大事だという話があり、大変納得した。今後の授業では、その部分を意識して取り組んでいきたい。

・即興的に表現できてこそ、英語が身近なものになるのであって、その力をつけるには、決まった場面設定における会話練習だけでなく、「即興性」を意識した活動を組み込んでいくことが大切なのだということが分かった。

・「いろいろな質問を経験しておくことが大切」という言葉が心に残った。質問に答える力も大事だが、質問」は能動的な行為なので、どんな教科や活動においても「質問する」という活動は必要だと感じた。

令和４年度　郡市活動報告

鳳珠郡

報告者：能登町立能都中学校
久田　倫子

■　令和４年度郡市研究テーマ

「豊富な英語のやり取りにあふれた教室～主体的・対話的な学びを深める授業を目指して～」

令和２年度の小学校の教科化を受け，新たな英語教育を実施していくためには小中を通じた英語教育の充実・強化が求められている。小学校，中学校の目標の達成に向けて，各段階の学びを円滑に接続させることが不可欠である。そのために，今年度は新しく「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」を主題として設定し，DVD による研修や公開授業，情報交換を通して，小学校，中学校における指導の充実や，連携の在り方について研究をすすめてきた。

■　年間の活動内容

月　日	内　容	場　所
4月20日（水）	部会組織決め 年間事業計画作成	穴水小
8月17日（水）	DVD による研修 情報交換（小中英研8地区研究発表会・普段の授業実践）	穴水小
10月26日（水）	公開授業（久田　倫子　教諭） New Horizon English Course Book 1 Unit 7 Story 1 Foreign Artists in Japan	能都中
1月11日（水）	研究のまとめ 中央研修報告会（穴水小　松盛　美紀　教諭）	穴水小

■　成果と課題

〔成果〕

○主題である「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」を目指し，各学校では，1年間，言語活動の充実に取り組んできた。また，授業研究会を通して実践を共有し合うことで，小中それぞれにおける課題について深く考え，指導改善につなげることもできた。

○DVD を視聴することで，小中のゴールの姿や，実践の方法について，お互いに確認したり，話し合ったりすることができた。

○研究授業の参観から，小中の授業づくりについて理解を深めるとともに，中学校のオールイングリッシュの授業や小学6年生から中学1年生への指導のつながりを確認することができた。

〔課題〕

△小学校では，語彙指導において課題がある。語彙数の少なさから，豊富な英語のやり取りに向けて，多くの工夫や日頃の実践の徹底が必要となってくる。

△中学校では，小学校の取組を踏まえた実践や，授業において目的意識のある活動，複数回の評価を取り入れながら，豊富なやり取りにつなげることが必要である。

△児童生徒の確実な学びに向けて CAN-DO リストの共有，活用が課題である。

△今年度は CAN-DO リストの学校間共有ができなかった。来年度は共有し，各学校の実態を踏まえた指導の充実を図っていくことが大切である。

■　活動内容

(1)DVD による研修

DVD 視聴後，グループで学んだことや印象に残ったことを話し合い，以下について今後の授業に生かすことを確認した。

＜小学校＞

・正しいアルファベットの読み方を指導すること。(ALT とのデモンストレーションは有効)

・文字指導の際は，最初に日本語で使っているものと本物は違うと気づかせること。

＜中学校＞

・本文読解と音読とのつながりのある活動を工夫すること。

・穴あき音読やメモをもとに音読すること。

(2)中学校英語科の授業研究会　～久田　倫子　教諭(能都中学校)による授業公開～

題　材	:New Horizon English Course Book 1 Unit 7 Story 1 Foreign Artists in Japan
ねらい	:様々な職業人について，その人がどのような人であるかを，代名詞などを用いて伝えることができる。
評価規準	:【知識】代名詞の特徴やきまりを理解している。 【技能】様々な職業人について，その人がどのような人であるかを，代名詞などを用いて伝える技能を身に付けている。

本時の課題は「様々な職業人について，ペアに紹介したり，質問に答えたりしよう！」であった。学習活動として，課題が提示された後，本文の内容について簡単に確認し，基本表現を参考に昨年度の職業人講話に来られた方々について，英語で紹介をする活動を行った。

〔授業整理会より〕

①　言語活動について

・総合的な学習の時間との関連を持たせることで，生徒たちの活動へ意欲を喚起することができた。

・スモールステップで，職業人を紹介するためには何が必要かを，生徒たちが気づくことができていた。

・テンポが良く，十分な発話量も確保されていた。

・最後のペア活動の録画は，生徒自身の学びを自覚化させることに効果的であった。

・生徒たちは口頭で伝えることはできていたが，伝える相手を意識するということが弱かった。

・相手意識を持たせるために，導入の時点で，ゴールをもう少し生徒と確認すればよかった。

・活動→指導の繰り返しは良かったが，指導後の練習が足りず，指導したことを活用して表現することができていなかった。話型を板書に残す，目的格のおさえをするなどの工夫が必要だった。

②　評価について

・本時の評価規準が【知識・技能】ならば，内容を正確に伝えるための知識や技能の習得に向けた指導と評価が十分ではなかった。正確な発話につなげる指導の工夫が必要である。

令和４年度　郡市活動報告

珠洲市

報告者：珠洲市立緑丘中学校
嶋垣　麗子

■　郡市研究テーマ

豊富な英語のやりとりにあふれた教室
～進んで英語を使いたくなる場面設定の工夫～

■　年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
４月２０日（水）	研究の主題設定と組織づくり，研究計画の立案
７月　６日（水）	実践交流①～小学校バージョン～
１０月１９日（水）	授業研究 場　所：珠洲市立宝立小中学校 内　容：小坂祐斗講師による研究授業，授業整理会
１１月２１日（月）	第１２回珠洲市中学生英語スピーチコンテスト
１１月３０日（水）	実践交流②～中学校バージョン～
１２月１９日（月）	珠洲市スペリングコンテスト
２月　９日（水）	ALT による研修報告，研究のまとめ

■　成果と課題

【成果】

・前年度の課題であった小中連携と各校の取組を共有するために，小学校・中学校の実践交流や小学校での研究授業を行い，互いに学ぶことができた。
・本市が継続して行っているスピーチコンテストやスペリングコンテストにおいて，計画的に実施することができた。
・市内の ALT による研修会を行うことで，指導法が共有されるとともに，言語指導の効果的な在り方について学ぶことができた。

【課題】

・長年継続しているスピーチコンテストやスペリングコンテストにおいて，その成果を検証することが必要である。児童生徒の英語力向上のために取組の方法や内容について再検討する。
・今年度は学校行事との重なりもあり，本市以外の研究発表会等に参加することができなかった。多様な指導法を学ぶ機会として，他郡市の実践から学ぶことも大切である。

■　活動の記録

（１）実践交流

小学校では，一人一台端末を活用した実践が多く見られた。スライドの共同編集によるプレゼンの作成や Jamboard による情報整理は児童に興味関心を高めさせる教材となっている。また単元を貫く言語活動の設定し，各時間でつけたい力を明確にすることで児童に見通しをもたせる工夫の紹介もあった。さらに英語専科による実践から，外国語に対する興味・関心を高める環境づくりについて紹介があった。外国語に親しみをもつためには，五感をつかって自然な発話を生み出すこと，学級の中で日常的に外国語を使う場面を設定すること，歌声を響かせる学校をつくることなど，多くのヒントを得ることができた。

中学校では英語科通信や帯学習の実践紹介があった。また単元のねらいに向けて必要感のある場面を設定する工夫もあった。場面設定をする上で，ALT との関りが非常に有効であり，参考になる活動例が多くあった。

（２）研究授業

学　年：小学校５年生
単元名：Unit5 Where is the post office?
ねらい：物の位置のたずね方と答え方を伝えよう。

今年度は小学校での研究授業を実施することができた。位置の言い方を練習するために Chrome book の Jamboard を使ってインフォメーションギャップの活動を行った。

＊授業整理会より

《児童の姿》

〇ICT をうまく活用し，意欲をもって活動していた。
〇ペア活動の際には相手意識をもって，対話していた。
〇自然に発話が生まれ，児童が話す英語が多く聞かれた。

《授業者の姿》

〇日頃の授業の積み重ねの成果が出ていた。
〇活動に必要感があり，児童の発話を促す仕掛けが多く見られた。
△パソコン上での活動から実際の具体物を使っての対話のやりとりがあれば，使える英語への転換となる。

（３）珠洲市中学生英語スピーチコンテスト

本市が行っている英語スピーチコンテストは今年度で１２回目となる。１年生の部ではスキットを通して伝えたいという思いからパフォーマンス力も向上している。２・３年生の部では自分の好きなことにこだわりをもって，英文を作成している様子も見られた。生徒からは，英語が苦手だけれど，コンテストを通して自信をつけたいという感想もあった。生徒にとっては英語を通して，表現力を向上する機会となっている。また昨年度からの取り組みとして，ALT によるウォームアップでアイスブレイクを行い，他校と交流する場面を設定している。さらに，スピーチの後に感想を述べ合うことで，互いに振り返ることができた。成果と課題を踏まえながら，生徒たちにとって有意義なコンテストとして，より良いものとなるために内容を吟味し検討していく。